

サービス評価と 運営推進会議を活かして

地域密着型サービスの質の確保と向上を
— 認知症ケアの地域拠点をめざして —

平成18年度 厚生労働省健康増進等補助事業

運営推進会議を活かして事業所の パワーアップをはかろう!

運営推進会議とは

地域密着型サービス事業所は、地域と連携し、地域に密着した運営が特徴です。
そこで、国の基準では「運営推進会議の設置」が義務づけられました。
(2006年3月14日厚生労働省令第34号「指定地域密着型サービス事業の人員、
設備及び運営に関する基準」第85条(地域との連携等))

運営推進会議の目的は?

地域密着型サービス事業者は、地域と連携し、地域に密着した運営が求められます。
運営推進会議では、地域に開かれたサービスとして質の確保・向上を図っていくことを後押しします。

おおむね2ヶ月に1回以上、定期的を開催することとされています。単に報告や情報交換に留まらず、話し合いを通して会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービスの向上に具体的に活かしていくことが大切です。

運営推進会議の参加メンバーは?

利用者、利用者の家族、地域住民の代表(町内会役員、民生委員、老人クラブの代表等)、事業所が所在する市町村の職員又は地域包括支援センターの職員、地域密着型サービスに関し知見を有する人等が参加します。

参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を十分に理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけていきましょう。

運営推進会議を活かした取り組みは？

運営推進会議メンバーの意見の反映

運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。

運営推進会議のメンバーからいかに多くの率直な意見をひきだし、改善にむけた具体的な取り組みにつなげていけるか、事業所側の姿勢が運営推進会議メンバーの参加意欲にも反映されていきます。

サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組み
運営推進会議では、自己評価の内容を説明すること、外部評価の結果を公表することが必須です。

年に1回の評価の効果をより高めるためには、取り組みや改善経過のモニター役が必要です。運営推進会議はまさにその適役です。評価と運営推進会議をそれぞればらばらに考えるのではなく、一体的に活かしていくことで相乗効果が期待できます。



運営推進会議のあんな例、こんな例

開催場所

- 事業所で、いきいきサロンを予定しており、そちらに集まってもらっています。
- 公民館館長がメンバーで、公民館を活用させてもらっています。



参加している人

運営推進会議に参加するメンバーとして示されている人の他にも、内容に応じて臨機応変にメンバーを募っているケースもあります。

- 警察署、消防署の方に参加してもらっています。
- サービス評価調査員や評価機関の方にオブザーバーとして参加してもらっています。
- 介護相談員にも積極的に呼びかけています。
- 近くの小中学校のPTAの方にも声をかけています。



良かったなあ

- 会議をきっかけに地域の人々が立ち寄ってくれるようになり、実際に事業所のやっていること、目標としていることを理解してもらえるようになりました。
- 児童との交流に取り組みたいと考えていたことが、推進会議の場で相談するとメンバーである婦人会会長がすぐにPTAに橋渡しをしてくれ、実現しました。
- スーパーの入り口に段差があり、車イスの方の利用が困難という話をしたところ、メンバーの方がスーパーに相談してくれました。さっそく、段差解消のスロープを付けてくれました。
- 児童らがベルマークを集めて、車イス一台をプレゼントしてくれました。
- 地域包括支援センターとの連携が密になり、地域全体の今後のケアのあり方の方向性が見えてきました。



困ったなあ

- 「なぜ、民間の事業者のやることに参加せなあかんのか？」という声
⇒市町村が関係者に運営推進会議の必要性を説明してくれることで、前向きに参加してくれるようになりました。



- 「利用者が迷子になるといけないので、名札をつけてくれ」、「危ないから玄関には鍵をかけて」という声
⇒地域の方の認知症の人に対する理解は、十分ではないことを再認識しました。
運営推進会議こそ理解を得ていくための貴重な場であり、ここがスタートラインと考え、がんばっていこうと思います。

- 「次に何をテーマにして良いかわからない…。
もう行事の報告は終わってしまったし…」という声
⇒事業所の集まりで、前回の評価で課題になった点を相談したところ、改善に向けた協働をしてくれることになったという事例を聞きました。
そこで地域との関わりが弱かったので率直に話したところ協力を得ることができました。
以来、評価項目を話し合いのテーマに用いて、あきらめかけていたこともアイデアをもらって質の向上に取り組んでいます。

運営推進会議の進め方

～1年を通して運営推進会議のテーマを考えてみよう～

[ある事業所の取り組みより]

第1回 5月テーマ

- 運営推進会議の意義や目的をしっかりと説明しよう！
- 我が事業所の理念を伝えよう
- 事業所全体状況、サービス提供の報告をしよう

第2回 7月テーマ

- 災害対策について話し合おう
(消防署の人にも参加してもらおう)
- 地域ぐるみでの消防訓練や救急救命法訓練実施を計画しよう
- 緊急時に備えて、地域でのサポート体制を相談しよう

第3回 9月テーマ

- 去年の評価結果の課題や活かした内容について報告しよう
(評価機関の人にも参加してもらおう)
- 選択した評価機関やサービス評価の取り組み方針や実施状況を伝えよう
- 評価にあたって家族アンケートの依頼について伝え、家族会や家族の意見の反映等の状況を報告しよう

第5
月

第2回
7月



第3回
9月

第1
月

第4
月

第6回
3月



第5回
1月

第4
月

第4回 11月テーマ

- 事業所のセーフティーマネジメントについて話し合おう
- 個々にあわせてリスクについて事業所の対応方針を伝えよう
- 徘徊SOSネットワーク作り等、地域ぐるみで認知症の人が安心して暮らせる町づくりについて話し合おう
(警察署の人にも参加してもらおう)

第5回 1月テーマ

- 評価の活用について話し合おう
(評価調査員にも参加してもらおう)
- 評価結果を報告し、今後の改善に向けた取り組みを伝えよう
- 改善に向けたモニター役をお願いし、協力してもらえることを話し合おう

第6回 3月テーマ

- 子どもたちや住民との交流について話し合おう
- 子どもたちがお年寄りと触れ合い、交流できる機会を相談しよう
- ケアに関する知識や経験を活かして、地域の人たちが相談できる場作りを話しあおう

運営推進会議を開催して

～我が事業所の取り組みと活用～

運営推進会議を3回行っての率直な感想としては、

久々のヒットだと思いました。

当初は、運営推進会議はどんな目的にしたらよいか、
どういう方向性にもっていったらよいか私たちも不安でした。
また、2ヶ月に1回ということで、最初はかなりやらされ感が強くて、
嫌なものをやるという意識でした。

1回目は、地域の方、家族の方、
グループホームの職員、5～6人のメンバーが
集まりました。

地域の公民館館長さんとかが意外に前向きな発言してくれたのがとても印象的で、
すごくカブけられました。

これはいいものだということで、もっとも
っと推進会議のメンバーを増やそうという
ことになり、婦人会の方や、ショートを利用
している方のケアマネさんや、地域の消
防署の方、警察署まで広範囲にお声をかけ
ました。



2回目は、事業所からの報告だけでなく、
利用者家族から突りのあるものをやりたい
というご希望ができました。

そこで、自分が管理者だったらどんなことがやりたいかを
討論することになりました。

婦人会会長さんから、子どもたちとの交流を推進したいと
いう声があがりました。

実際、こちら辺の地域は核家族化が進んでいて、お年寄りとの触れ合いや
認知症の人への理解が十分でないのが実情です。

運営推進会議が終わった後に、婦人会会長さんや町内会会長さんが
尽力して下さり、小学生がグループホームに訪れることが
できるように算段してくれ、実現しました。

あぁしたら良い、こうしたら良い、と具体的な例が出ているのが興味深いです。
前向きな発言があると、地域包括支援センターの職員さんやご家族、グループ
ホームの職員からも意見が出て、波及効果が生まれていると思います。
地域の方が本音でグループホームをいかに良くしていくかに焦点をあててお話
をして下さり、毎回活発に会の内容が変わっていくという実感があります。
回を重ねるたびに内容が充実してきています。
毎回出るたびに元気をもらっている運営推進会議です。

コメント：岩手県 グループホーム「ひまわり」

写真提供：愛媛県 グループホームだんだん

1 運営推進会議の目的をしっかりと

運営推進会議では、単なる報告や情報交換にとどまっていますか。話し合いを通じてメンバーから率直な意見をもらい、事業所のサービスの向上に活かしていくことが大切です。また、運営推進会議は事業所が、積み上げてきた支援に関する知識や実践を地域の人々に向けて発信していける場でもあります。地域密着型サービスが、真に地域と支え支えられる関係を構築していくことを目指して取り組んでいきましょう。

2 メンバーは柔軟に、前向きな人を

固定化したり役職の肩書きばかりにとらわれず、支え合いのメンバーとして、事業所の活動に注目してくれる人をお願いしていきましょう。前向きな事業所の方がメンバーの中にいると、牽引役になり会議全体の活性化につながります。

3 オープンにしていこう (形式にとらわれなくて、構えず)

「留意していても、事業所内だけではどうしても空気がよどみます。事業所の『換気扇』です。(鳥取県、いくのさん家) 運営会議を機に、町にも認知症ケアについて新たな風を巻き起こしていきましょう。構えず、受け身とならず、オープンにしなから双方向的な関係を構築していきましょう。

4 評価を活かそう (評価で困ったことを話し合うことで、改善につなげよう)

「評価結果を会議で報告して終わりでは残念です。何が、どのような改善課題なのか、何が期待されるのかを報告しメンバーで掘り下げて討論してもらいましょう。意見をもつと、改善に向けたアクションにつなげていきましょう。評価項目から地域との関わりを抽出してその取り組み状況や課題について、家族・地域のサポートも含め期待を込めた意見交換を行っている例があげられています。

5 市町村、地域包括支援センターとの連携を密に

新しいサービスや地域包括支援センターでは、事業所も市町村も考え方や運営、サービスについて誤解錯誤しながらよりよいあり方を模索しています。現場や利用者の課題解決のためには、運営推進会議を通じて、考え方や実態を市町村担当者や包括支援センターによく知ってもらい、情報を共有していきましょう。事業所だけで課題を抱え込まず、市民福祉を推進する最前線の立場の市町村等と協働関係を築いていく貴重な機会です。